

「川上小学校の川上踊伝承活動の取組」

1 学校名

いちき串木野市立川上小学校

2 学年・人数

1年生以上の希望者（2人）、地域保存会

3 日時・場所

(1) 練習の日時（場所）：8月（川上小学校校庭）

(2) 発表の日時（場所）：長田神社，諏訪神社，葛城神社，川上小学校（8月28日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

かわかみおどり
川上踊

(2) 由来

今から百数十年前，五穀豊穰と平和を祈念して創始されたものと伝えられている。
毎年8月26日を踊りの日と定め，踊り続けられてきたが，戦時中から中断していた。
その後，昭和39年から復活した。現在では，原則として8月末の日曜日に踊り，川上踊り保存会によって毎年行われている。

(3) 構成等

踊り子は太鼓14人，鉦4人からなり，踊りは22演目（①門係り，②庭入り，③庭取り，④後すぎり，⑤荒川，⑥チャンチャコ，⑦ササラ，⑧片セキ，⑨高跳び，⑩コ克蘭，⑪横跳び，⑫四十べ，⑬サン鉦，⑭楽，⑮モッココンコンノヌカシ，⑯回節，⑰入コシ，⑱庭崩，⑲ツンテン，⑳唄，㉑七夕，㉒謝礼）がある。一踊り約40分ぐらいかかる。

5 保存会や地域との連携の具体

運営にあたっては，川上地域審議会員25人のほか神社総代・顧問等が参画する。

なお，この保存会には，地域館長，集落公民館長，婦人会長その他の団体の長の参加が求められる。また，旧市来町の時（昭和36年4月）に文化財に指定されている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

以前は，文化財少年団・PTA及び川上踊り保存会が中心となって運営していたが，学校の児童数減少に伴い，現在は，川上コミュニティ協議会が運営をし，小学生は希望者を募って参加をしている。また，学校教育活動としては，高学年の総合的な学習の時間に「ふるさとを伝えよう」のテーマで川上地域の調べ学習を行い，故郷の文化に親しむ学習を行っている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 太鼓や鉦の踊りを覚えるのは大変だけど、兄弟姉妹または親子と一緒に踊れることを楽しみにして、踊りに参加をしている（参加児童）。
- 毎年、夏が来ると川上踊りの時期がきたと感じる。ふだんは静かな田園風景の中に華やかな衣装を身にまとい、太鼓や鉦の独特なリズムが響き渡る。真夏の暑さと相まって、川上踊りが地域住民の方々や子どもたちの心に川上の原風景を焼き付けている。この伝統文化が、今後とも川上地域で末永く続いていくことを心から願いたい（保存会・教員）。

ずうっとずうっと続く川上おどり 3年 内田悠進

お父さんは3年生から川上おどりの鉦をたん当し、五年生から高校生まではたいこをたん当していました。「何年前前に仕事でお父さんが大阪にいたころは、駅のかいさつ口を通るときに、川上おどりの「高とび」のリズムをむいしきにきざんでいたほどだったんだよ。悠進のおじいちゃんもわかいころはずうっと川上おどりの鉦をやってきたんだよ。お父さんがひいおばあちゃんに聞いたら、ひいおじいちゃんも鉦をやっていたと教えてくれたよ。」とお父さんから聞きました。

家の中で川上おどりの「まわりせき」を親子三人で練習すると、「トントコトントントン、ハーサー」の「サー」のところで、ばちを下向きにかまえてたたかないといけません。でも、おどりの流れで何度やってもばちは上向きになってしまいます。お父さんはぼくができるまで何回も教えてくれます。だから、本番当日、おどりがはじまると体が自ぜんとうごきました。「やった。上手にできたぞ。」本番中なのに思わずわらいそうになりました。終わると、「がんばったね。かつこよかったよ。」とたくさんの人からはく手をもらいました。「まわりせき」は100%うまくできました。ぼくはいつかお父さんのようにむいしきにリズムがきざめるくらいになりたいです。来年もさ来年もその次もずうっとずうっとおどりたいたいです。